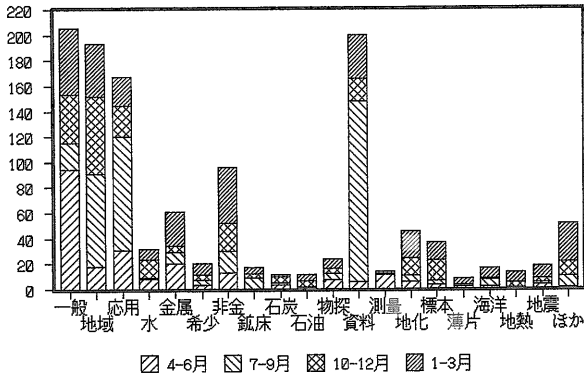


地質相談所から

昨年度の相談件数1,242件

1991年度に寄せられた相談は全部で1,242件ありました。内容を分野別に比較すると第1図のようになります。

相談内容は、一般地質についてが205件と最も多く、以下、資料(200件)・地域地質(193件)・鉱物資源(177件)・応用地質(167件)の順になります。一般地質と地域地質とそれらの研究資料は、当所の基幹的な部門ですから、問い合わせが多いのは当然でしょう。鉱物資源関係では、非金属(96件)が金



第1図 1991年度の分野別件数比較

略号 一般：一般地質，地域：地域地質，応用：応用地質，希少：希少金属鉱床，非金：非金属鉱床，鉱床：鉱床一般，物探：物理探査，地化：地球化学

属(61件)と希少金属(20件)の合計数を上回り、また応用地質では土木地質・表層地質に関するものが多く、いずれも時代の要請を物語っています。

うれしい悲鳴の北海道支所

昨年度のトピックスは、当所から出版された特殊地質図「札幌及び周辺部の地盤地質図」について新聞報道されたのが反響を呼び、北海道支所に問い合わせが9月の1ヶ月だけでも200件近く殺到したこと、また雲仙普賢岳の噴火に伴う質問が、マスコミなどから多く寄せられたことです。このため応用地質と資料の分野の件数が大幅に伸びました。

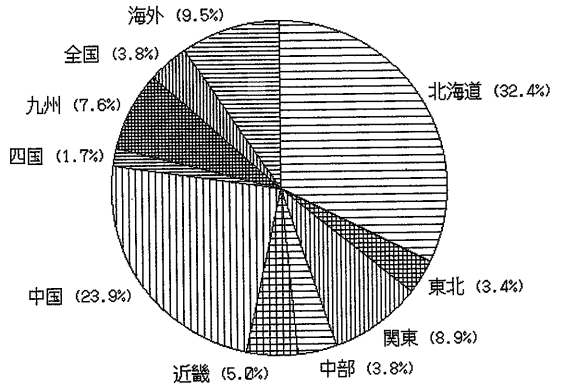
毛色の変った相談では、登頂記念に各地の山頂で採集した石を、アマチュア登山家がリュックサックに一杯持ち込んで、肉眼鑑定を依頼したり、「高校入試の地学の解答が本当に正解か？」と電話で問

い合わせが来たり……。

やはり、アジアの中の日本

相談の対象となった地域の百分比は第2図の通りです。地域別では北海道(314件)を筆頭に、中国地方(232件)が第2位、海外(92件)が第3位です。

海外の国別は、ビルマ・タイなど東南アジア諸国(16件)・モンゴル(8件)・インドネシア(5件)をはじめ、中国・韓国・ロシア・台湾などの近隣諸国が主でした。このほかヨーロッパ諸国(10件)・アフリカ・北米・オセアニア(各4件)もありました。また北方領土に関するものは5件ありました。海外地域の質問内容は、地質関係が最も多く、次いで



第2図 1991年度の地域別件数百分比

金属・非金属鉱物資源と石炭資源に関するものが目立ちました。

地調はコンサルタントのコンサルタント

相談してきた方々の職業は、企業が全体の54%を占めており、以下、国及び地方自治体(15%)、個人(13%)、教育機関(8%)、マスコミ関係(5%)などの順になります。企業の内訳は、地質コンサルタント業が過半数を占め、次いで建設・砕石関係の業種が目立ちました。

各地の地質相談窓口

北海道支所(札幌市) Tel. 011-709-1811

本所(つくば市) Tel. 0298-54-3540

近畿・中部地域地質センター(大阪市) Tel. 06-941-5377

九州地域地質センター(福岡市) Tel. 092-551-6099

IGC 事務局 ニュースは休載しました。